

Title	輸出加工区の理論 - 開発戦略と輸出加工区 -
Sub Title	
Author	石川真也(Ishikawa, Shinya) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0183

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 石川 真也 主査 藤 枝 省 人
副査 加 藤 寛
所属ゼミナール 藤 枝 省 人 研 : 小 野 桂之介

輸出加工区の理論 —開発戦略と輸出加工区—

東南アジア諸国は、未曾有の世界不況のなかで、これまで取ってきた輸入代替工業化戦略から輸出促進工業化戦略へと政策の転換を図っている。輸出加工区は、輸出促進工業化戦略の有力な一手段として取り上げられ、これらの国のほとんどが輸出加工区の建設を進めている。これらの国の輸出加工区の成否は、その国の産業開発に大きな影響を与えることになろう。従来の輸出加工区に関する研究では、輸出加工区を植民地におけるプランテーション、鉱山業などと類似のもの（輸出飛び地）と見做す見解が有力であった。これに対し本研究は、輸出加工区は必ずしも“飛び地”ではなく、或る一定の条件のもとでは国民経済のなかに発展的に吸収しうること、そしてその鍵は輸出加工区戦略にあることを示そうとするもの（輸出加工区の戦略論的研究）である。本論文は、この研究プログラムの第1段階の研究結果をまとめたものである。すなわち、輸出加工区を取り巻く環境を含む戦略要素を分析し、戦略フレームを構築することが本論文の趣旨である。輸出加工区戦略とは、発展途上国が、国民的な開発阻害要因（資本の欠乏、市場の欠乏、技術の欠乏、奇型的価格体系、周辺産業の欠落）を回避し比較優位を獲得しうる産業を多国籍企業の経営資源を利用して開発し、その経済的刺激によって国内の後方関連産業の開発等の経済目的を達成しようとする戦略である。輸出加工区の戦略要素は(1) 国内経済状況（阻害要因、促進要因）(2) 国際経済環境（景気、輸出加工区間競争）(3) 多国籍企業の行動(4) 狭義輸出加工区戦略（戦略目標の設定、誘致対象の設定諸政策）である。但し、本論文では促進要因、世界経済の景気と輸出加工区との関係および輸出加工区の法制度についての分析は課題として残している。本研究を継続し、現実の輸出加工区の戦略の立案、評価などに参加できる機会があるとすれば、望外の幸である。 以上